

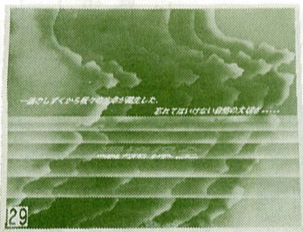
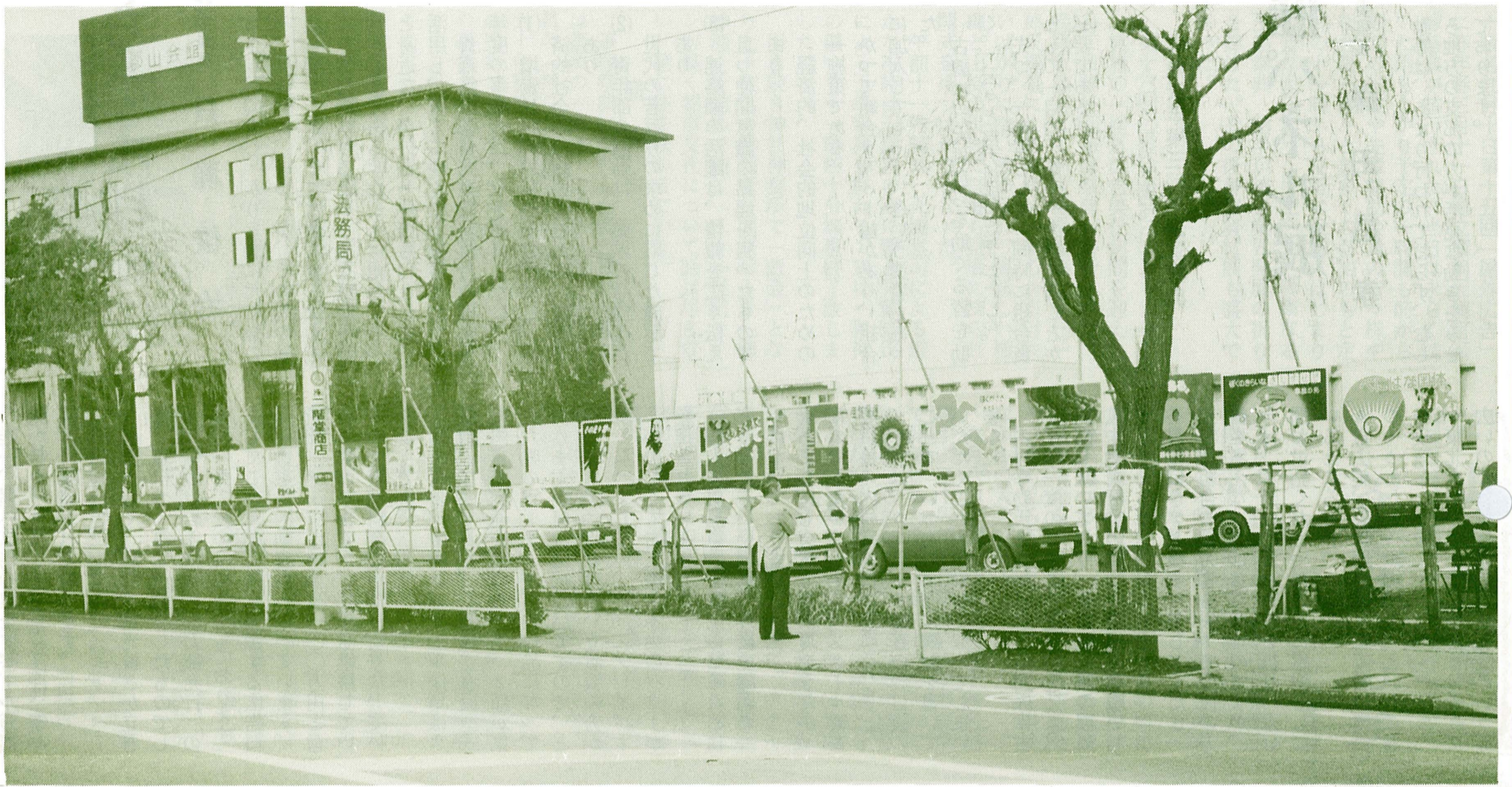


# と う ほ く

AOMORI · IWATE · MIYAGI · AKITA · YAMAGATA · FUKUSHIMA

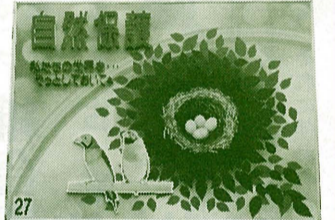
## 創刊号

発行所  
東北地区屋外広告美術業組合連合会  
情報文化委員会  
事務局 TEL 257-0437



建設大臣賞

## 第12回 東北六県公共キャンペーン作品展 福島県郡山市で開催



日広連会長賞

青森・岩手・秋田・宮城・山形の各組合員から5点ずつ、福島県10点の合計35点の作品展が福島県郡山市で平成元年10月13日から15日まで開かれました。作品は各県の代表ですので、いづれ劣らぬ力作ぞろいで、道行く人々の注目を呼びました。審査の結果建設大臣賞には福島県の大洋社さんの作品が選ばれました。



### 発刊にあたって

東北地区屋外広告美術業組合連合会  
会長 須賀政雄

この度、古沢情報文化中央委員長のファイトと、これに協力した各県広美の情報文化委員長の方々のご協力で、東北地区連の機関紙が発刊されることになりました。心からお礼申し上げますと共に、ご苦勞に対し感謝申し上げます。次第でございます。

現在は情報過多の時代と言われておりますが、本当に必要な情報はなかなか得られないのではないのでしょうか？地区連にあっては歴代の中央委員長さんや各県広美の委員長さん方が、機関紙発刊を何度も企画検討してまいりましたが、発刊に至りませんでした。各県広美にあっては組合機関紙の発刊は、その任にあたる方々は大変苦勞し

### 発刊を祝す

社団法人全日本屋外広告業団体連合会  
情報文化委員長 上沖正季

ており、その上東北六県の機関紙発刊と云うことは、言うは易く、いざ実行する段になって挫折するのが常でした。この度発刊に漕ぎつけたことは大変な熱意と努力、これにご協力戴いた各県広美の委員長さん方にめぐまれた結果と思えます。東北の組合員の一人一人はどんなに感謝し、地区連の存在と今後に期待するものと思われまます。どうか、創刊号のみと云うことのない様、続けて発刊され、東北地区連の歴史の一頁とされて行くことをお願い致します。組合員の皆様には吾々の機関紙に愛情を注ぎ育てて行く様ご協力をお願い致すとともに、編集の皆様には衷心より感謝申し上げます。

今般、東北地区連合会において機関紙を発刊致します由、進歩する情報化時代に、まさに時宜を得たご措置として、心からお慶びを申し上げますと共に、そのご活躍にご期待申し上げますのであります。

現在、日広連傘下の会員団体で定期的に機関誌(紙)を発行している団体は二十九、地区連合会では四を数えますが、十地区連、四十七団体総てが機関紙を発行することを目標とする私も委員会にとりまして、このたびの東北地区連のご英断に心から拍手をおく

るものであります。

今さら申し上げるまでもなく、情報の伝達・交換に尽くし、所属員を結ぶ絆となる機関紙は、いわゆる組織の顔でありまして、日頃傘下六団体の意欲的活動もあって、全国に確かな地位を占める東北地区連の豊かなイメージを本紙を通じて、広く全国に伝えると共に、地区同業の連帯、親近感の醸成にも十分ご活躍あらんことを祈念し、機関紙創刊によせるお祝いの言葉と致します。

# 青森県

## 初心に立ちかえり

青森県情報文化委員長 貝瀬俊治

青森県屋外広告美術協同組合は平成二年十月で、創立三十周年を迎える。

定款第一条に掲げた「相互扶助の精神に基づき、組合員の為に必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることを目的とする。」の条項がどれ程の実効をあげ得たか、又車の両輪である社会的地位の向上が社会のどの面にあらわれているかを、しづかにふりかえる時である。

確かにわれわれの活動を越えた時の流れが、われわれの業種を変革した。そして日本は世界の経済大国の頂点に立った。

しかし、われわれの経済的地位と社会的地位の向上はそれに伴うものであつたらうか。

極端な言い方をすれば滔々たる激流に翻弄され結局は見捨てられた微小な零細企業に過ぎないのではないかと。

十年、二十年、三十年の月日を積み重ねての今も実感としてわれわれの経済的、社会的の低さを痛感しているのが現状ではないだろうか。

それが確かにそうであったとしたら、われわれは何をなすべきか。先づ、組合組織の初心に立ちかえり、経済的地位、社会的地位の向上という

大きな目的をしつかりと胸にたたきこみ、具体的に、一歩一歩、その為の基盤を築くこと、それは個人個人はもとより相互扶助という相互扶助の精神が必要である。たとえば組合をもっと身近な、自分と一体のものとして、活用し、育ててゆくことを考えたい。

青森県屋外広告美術協同組合の平成元年度の事業の二、三を紹介したい。

(1) 増資は経済的基礎を強固にし、経済的社会的信頼を得るための施策であり

(2) 青年部の活動は、業界の活性化が世代の若返りの求めに応じた施策であり

(3) 連絡網の活躍は、情報を広く伝え且つ仲間意識の昂揚を狙ったものであり

経済的、社会的地位向上のための一施策である。かつて組合メリット論があり、組合に加入しても……、という業者もあつた。

古語に「天は自らを助くる者を助く。」云々と自力自助を論じている。先づ、一業者として、同時に組合員として「自力」を十分発揮することが必要である。

# 岩手県

## 盛大に開催。パネル展

岩手県情報文化委員長 鎌田昌孝

★岩手県屋外広告美術協同組合、会員50社、9支部(盛岡5支部)に組織されており、委員会とか支部活

動等は、あまり行われておらず、むしろ地方の支部の方が活発な動きをみせております。

唯一、屋外広告の日をアピールして開かれるパネルコンクールだけは、年々盛大に開催されております。

以前は「屋外広告の日」のキャンペーン企画として、駅前の電光板とか立看板、宣伝カー等で活動をしたものでしたが最近では岩手日報(23万部発行)の紙面一頁広告のみを利用してあります。

そしてこの新聞広告に掲載する広告料金が貴重な活動資金となっております。新聞一ページの料金は一〇〇万円と言われておりますが、15年も継続しているのだから特別料金でかなり安くはなっているように思われます。

岩手県のパネルコンクール作品は2部制になっており、1部は立看板形式で内容が交通安全のみです。2部が東北六県のコンクール用の作品になっておりますが自由選択出品ですので、どうしても手つとりにばやい立看板の方が多くなってしまい、ディスプレイパネルが少なくて岩手県の本場のパワーが発揮されないようです。

個人の出品意欲を向上させるためにどうしたらいいのか、今後の課題の一つになっております。

★あまりにも突然で吾が耳をうたがったのですが、パネルコンクール審査委員長の内村幸助氏が急逝されました。それは、コンクール審査の数日後のことです、いつものように講評を書いていただくことも出来なくなりました。

内村幸助氏と我が組合との関係は古く、年一度のコンクール審査だけでも15回も続いており、その他、県の屋外広告物講習会の表示の講師もお願いしております。

常に良きアドバイスをしてくださいました我が組合の協力者として今後の方針を考えなければならぬのですが、今は、本当に心から冥福を祈り、永い間お世話くださったことに感謝をしていこうとします。

★岩手県、高橋理事長は新年度の抱負の一つとして「組織拡大」ということを政策として強くうたえております。東北六県のなかで面積だけは最高に広いので、会員数が最下位というこ

とで会員の中には肩身のせまい思いをしている人もいます。しかし組合運営上、差をつけたい程度で最小人員で最高の効果を挙げられればいざいざいいわけです。

# 秋田県

## 屋外広告会館落成

秋田県情報文化委員長 石井高義

秋田美の近況としては、創立三十周年記念事業の最大の目玉である、かねてよりの懸案事業の新組合事務所建設、屋外広告会館が平成元年二月にみごと落成の運びを見たことにあります。

構造は鉄骨亜鉛メッキ鋼板三階建、床面積一階、七・六二㎡(駐車場)、二階、四二・四七㎡(事務室)、三階、四二・四七㎡(会議室)、秋田美が誇るにふさわしいものであります。昭和六十年に五代目理事長、石塚氏の元に六ヶ年計画による建設の資金準備を始めてから、早くも足掛け四年目にして実現できたことは驚異的なことであり、組合員の結束の強さをもの語るものと思っております。建設委員会が昭和六十三年九月に発足し、設計、見積、施工業者の選定、資金計画等、何度も会議を開きながらの会員のご苦勞は、丸谷理事長をはじめとし、秋田美の歴史として一ページを色濃く飾るにふさわ

しいものと思っております。休む間もなく、九月二十二日に行われた組合創立三十周年記念大会の準備に追われるなど、理事長はじめ各委員会とも近年にない多忙な年でありました。出席者総数百六十名の式典及び懇親会はまさに十年に一度の祭典事業にふさわしく、厳粛の中にも華々しい大会を飾ることができ、大いに満足のいくものであったと思われまふ。この機会をかりて十年に一度の三十周年記念誌の発刊ができたことも印象に残る一ページでした。平素お座成りにしていた諸行事等の記録など、三十年前からの諸先輩の日記、写真等の整理を進めていくうちに今日の秋田美の基礎固めがいかに難儀されたか、その状況などかいまみることができたこと、そしてそれらを掲載できたことに情報委員の一員として、大変にやりがいのある一年であったと、心から喜んでおります。

# 宮城県

## 組合創立30年記念 筆塚建立と祭典

宮城県情報文化委員長 大友敏夫

宮城県屋外広告美術協同組合創立三十周年を迎え、組合員総意のもとに(一七名)、我々の業界の基ともなる筆塚を、それに使われた色々々獣たちをと

むらう意味において此の度昭和六十二年三月十一日筆塚を学問の神様、菅原道真公が祀られている榴岡天宮宮に、春の淡雪の降りしきる中(三月十一日)

## 技能グランプリ 上位入賞!!

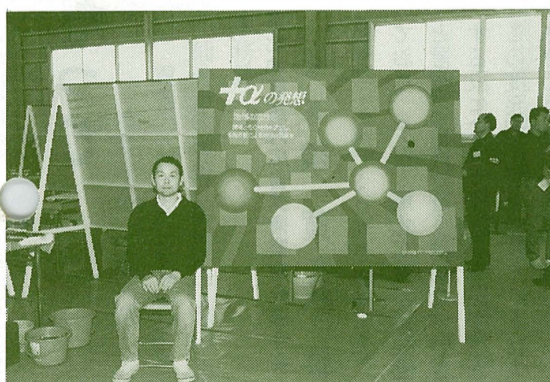
平成元年三月十日から十三日まで千葉市「中央技能開発センター」で開かれた第八回技能グランプリに東北六県からも参加し第三位と第四位とかがやかしい成績をおさめました。

参加者氏名

- 青森・木村 勲
- 岩手・倉本正勝
- 宮城・荒川和男
- 秋田・小畑正博
- 山形・京野秀明
- 福島・松野良宏



3位入賞 山形 京野秀明氏



4位入賞 宮城 荒川和男氏

の佳き日に、組顧問の三塚博衆議院議員、須藤正夫県議会議員、加藤清之進市議會議員、県能力開発協会会長、県高等専門学校校長等々、神社側総代各位組合員多数参列のもと筆塚建立落成式を挙行された。厳肅のうちに式はとりおこなわれ、除幕の儀においては、初代組合理事長 鹿又静雄氏(故人)代理 鹿又一晃氏、二代目理事長 狩野広平氏、三代目理事長 浅部喜男氏により除幕され、高さ2m(台座含)の丸森産石、揮毫、宮城県知事山本壮一郎殿(前知事)の立派な刻字が取材の各テレビ局のライトに浮かび上がり参列者の盛大な三拍子があり、引き続き玉串奉奠降神の儀、清技の儀、昇神の儀と式典は無事終了したその後神社社務所に席をうつして、なほらしいの儀を行い初めに筆塚建立実行委員長須賀政雄氏(現地区連会長)より、これまでのいきさつの挨拶があり、引き続き神社より感謝状贈呈があり、参列者全員にそれぞれ御神符と記念品が贈られた。

**筆塚祭典盛大に**

屋外広告の日のキャンペーン併催ミニ資材展

組合創立三十周年記念行事の一つとして榴岡天満宮に三月建立しました。筆塚の第一回筆塚祭典が九月十七日折りからの大型台風十三号の影響の為に、時々風雨の強い中、同社境内に来賓及び組合多数の参加のもと厳肅の内にとり行われた。

境内に紅白の幕を張りめぐらした天幕二張の中にしつらえた祭壇に供物と共に組合各位の永年に亘り使われて来たいわばお店の命とも言えるべき各種の筆の数々が供えられ宮司に依り神事にのっとり丁寧に清められ正月のどんと祭に納められる事になった。参加者全員にそれぞれ組合特製のタオルが配られ筆供養が滞りなく行われた。筆塚祭典後はミニ資材展が併催され天満宮社務所にて(株)ジャパンネットワークサービシスに依るスクリーン印刷の簡易製版機の実演をまじえての講習が行われ、又、テントの中では、ヒルティの各種ドリルの実演岩石を持ち込んでの実演には会員よりいろいろの鋭い質問等あり大変有意義な第一回筆塚祭典であった。

昭和六十三年第二回屋外広告の日キャンペーン筆塚祭典組合員参加者六



十数名九月十日第十五回「屋外広告」に昨年春三月十一日建立榴岡天満宮筆塚祭典が挙行された。当日は永らく続いた雨も上がり予定の一時も前から顧問の先生や先輩賛助会員の皆様や組合員と続々と数多くの参加のもと定刻の十一時から荘厳な祝詞にはじまり「屋外広告の日」に相応した厳肅なる玉串奉奠、拍手が続き業界発展の祈りを捧げた。その後併催資材展も盛大であった。

**平成元年第三回の筆塚祭典**

第十八回「屋外広告の日」キャンペーン実施の「屋外広告美化旬間」を迎え九月二日第三回筆塚祭典が挙行された。榴岡天満宮にて前宮城県知事山本壮一郎氏揮毫による筆塚は朝早くから目映いばかりに洗い清められ、真新しい標繩と山海の供物で祭壇も見事に飾られ開式を待たせられた。

午前十一時開式、天満宮司による厳かな祝詞は天満宮の森に響き先輩諸氏による玉串奉奠も終わり、式は「昇神の儀」で十一時四十分無事終了致しました。

引き続き神社社務所で「直会」となり七十数名の参列者一同がおみき「御神酒」折詰めで談じ「二十一世紀サイロンが築く都市文化について」話は尽きない。話に花を咲かせていた。

**研修会**

筆塚祭典に参列した組合員七十数名は祭典の「直会」に続き当組合賛助会員の(株)光彩塗料商会の紹介で「ターナー色彩株式会社」による標記「第三の塗料ファラオン・シート」についての研修会が開催された。素材としてのファラオンシートの説明に始まり、ファラオンシートの数々の特徴、シートの特徴、用途施工手順、施工コスト、ファラオンの将来性等々、講師の説明組合員からの質問で時間は刻々経過し予定を四十分もオーバーした。皆様方には袋一杯の資料を手に研修会は無事終わりで散会となった。以上、今年第四回祭典に向けてよりよい祭典と致したい。

**山形県**

**各委員会の活動活発!!**

山形県情報文化委員長 古澤龍一

三月十一日、東北大会が山形県葉山温泉「古窯」に於いて開催された。当番の本県組合員は用意をととのえ各県諸君の来形を待った。

一年一回の東北総会とは言うものの出席する人は地区組合の理事肩書きを付けた人達が多く、一般の組合員の出席は開催地のみという有様、これで総会といえるだろうか、いつも心に掛けるがらの大会であった。

六月八日全国大会に山形県十四名出席す。三十周年記念年という事で東京で開催された全国大会にと力を入れているが、これにて役員顔見せ同様な内容であるが、大組織ともなると致し方ないのだろうか。何か組合員には程遠い様な会議で今後の大会のあり方に一考を要する様だ。ホテルオオクラには零細業者の我々にはちと荷が大きすぎると大会のみ参加し、大多数の人はこれより潮来まで廻り道し、宿泊した。大会史跡一〇〇〇〇円、食費一七〇〇〇円、宿泊費一五〇〇〇円、こんな大名旅行の様なものに一般組合員が何人参加できると言うのか。反省!!

六月四日、村山市で毎年行われている筆供養が催された。この筆塚は村山市書道連盟が建之したもので我々県組合としてはおしよばんの甲なものである。有り難い佛様のお経を聞き、午前一時より組織振興と経営労務委員会主催の「どうしたら、儲かるか」の題目で講演会を開いた。

四十名程の出席をみ、儲かる語をよく聞いた訳であったが、なかなかどうして、これが簡単で一番難しい事、大変勉強にはなったが、その後はたして組合員は儲けることが出来たであろうか。

八月三日、山形市制一〇〇周年記念行事として「おみやげワールド」が山形市に於いて開催された。当組合としてはこのイベントの看板受注の運動を行ったのであったが、電通さんが元

**福島県**

**第12回東北六県公共キャンペーン作品展 福島県郡山市で開催**

福島県情報文化委員長 黒沢功

十二回目を迎えた恒例の東北六県公共キャンペーン作品展は、十月十三日から三日間、福島県郡山市内「さくら通り」沿線の市役所職員駐車場で開催された。本年は福島県組合が開催幹事となり実施したもので、これで各県持ち回り開催の本作品展は東北六県を二巡したことになる。

三瓶支部長以下、地元郡山支部員総出の作業奉仕により整然と展示された作品は、各県から選り抜かれてきた三十五点だけに、いずれ劣らぬ力作ぞろいで、それに何よりも、会場が交通頻繁な道路に面しているという好条件に恵まれて、多数市民の関心を集めた。

開催初日の十三日午後一時から、武藤重典先生(福島大学名誉教授)と木幡幸子先生(郡山女子大学教授)によって審査が行われ、入賞作品十二点選ばれたが、晴れの建設大臣賞は福島県組合の大洋社が獲得した。

なお、参考までに出品作品のテーマをみると、交通安全十一点、環境保全九点、防犯五点、べにばな国体PR五点、ふるさとおこし二点、その他三点、という内訳になる。

**自作の透明地球儀、地元の評判に**

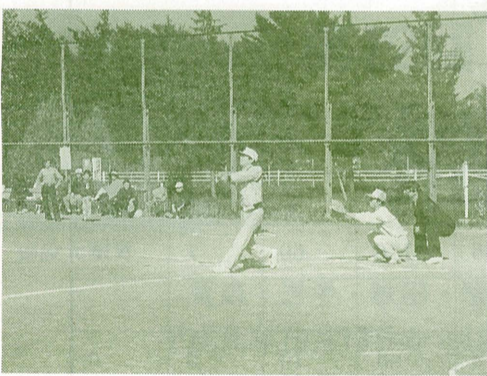
福広美協(三室金秋氏の労作)

地球の反対側の国や海の様子が一目でわかる透明の地球儀(プラスチック製)を、半月がかりで作り上げた人がいる。テレビのガラス製の透明地球儀を見たのがきっかけで、地図とニラメッコしながらコツコツ刻み続けた労作だ。しかも、しゃれたケヤキの花台を土台にし、世界時計も備え付け念の入れようで、そのまま飾り物になるが、社会科の教材としてもピッタリ。と地元の評判になった。

この珍しい地球儀を作ったのは福島県組合の三室金秋氏(有)とんぼ工芸:福島県いわき市)。昨年、テレビのクイズ番組で見たガラス製地球儀の美しさに感激。電球の笠として使う透明なプラスチックの球体(直径約四十センチ)を材料に選び、自ら作ってみることにした。

一番苦労したのは各国を等分に縮小すること。仕事で使っているプラスチック加工用のドリルを手に、経緯線を引き、このマスを基準にして1カ国ずつ丹念に彫り進めた。それぞれの国名と首都名も丁寧に刻字、南北回帰線、日付変更線もきちんと引かれ、海に浮かぶ小さな島まで目を離さなかった。また、南米ウルグアイをそばの大西洋上に記された丸印は、同氏自身が探した「いわき市の地球の裏側」に当たる地点を示している。

休日返上で完成させた作品だけに、作者の愛着もひとしお。地元の評判に、「売ってくれと言われてもちょっと...でも何かのお役に立つなら利用してほしい」と話している。



**平成元年度地区連各委員会開催状況**

3月11日	行政対策、経営労務合同委員会	上山, 古窯
6月15日	情報文化委員会	山形, 大沼ホテル
7月8日	技能開発委員会	盛岡, 仁王会館
9月8日	事業厚生委員会	青森, 教育会館
9月13日	組織振興委員会	仙台, 弥生会館
10月6日	経営労務委員会	秋田, 弥高会館
10月13日	財政管理委員会	郡山, ビューホテル
11月7日	行政対策委員会	仙台, 弥生会館
10月13~15日	第12回東北六県キャンペーン展	郡山, 市役所隣
10月13日	地区連各理事長、専務、事務局長合同会議	郡山, ビューホテル

# 21世紀サインが築く都市文化

9月10日  
屋外広告の日

組合運営上の隘路と旅費支給

地区	組合員の協足	資金調達の難	地区内同業の逼迫	雇用困難	専従役員	賦課料の未収・手収	記帳事務の難	隘路なし	旅費支給
岩手	○								△
宮城	○								△
秋田	○								△
山形	○	○		○	○	○			○
福島	○					○			△

旅費支給 ○=全額支給 △=一部支給

年予算総額と項目別比率

地区	年予算総額(千円)	収入(%)			支出(%)			
		賦課金	事業	その他	事業費	一般費	人件費	その他
青森		60.0	30.0	10.0	40.0	30.0	20.0	10.0
岩手	14,004	19.5	79.6	0.9	75.5	8.5	8.8	7.2
宮城	21,620	36.0	60.0	4.0	59.0	26.0	15.0	0
秋田	5,950	27.8	59.5	12.7	12.5	15.0	34.6	37.9
山形	6,470	50.0	47.0	3.0	18.5	41.0	17.5	23.0
福島	13,180	48.0	49.0	3.0	45.0	34.0	15.0	6.0

## 各県の実態

平成元年十二月三十一日現在

屋外広告物審議会委員数

地区	総数	業界	広告主	官公庁	学識者	その他
青森県	15	1	0	7	7	0
岩手県	無					
宮城県	無					
仙台市	13	1		4	7	1
秋田県	15	1	0	5	9	0
山形県	16	3	2	7	4	0
福島県	17	2	2	4	5	4

アウトサイダー数、同勧誘方法

地区	調査時の員数	推定アウトサイダー数	組織率(%)	アウトサイダー勧誘方法
青森	86	80	51.8	各支部ごとに適格者を勧誘
岩手	50			
宮城	120	260	31.6	組合員による自主的勧誘
秋田	67	50	57.3	各支部推薦としている
山形	80	200	28.6	各支部長に一任し理事会で決定
福島	128	150	46.0	個別折衝(役員等の人脈をたどり個別に働きかけ)

事業所共済・自主共済加入者数一覧

地区名	事業所共済		自主共済	
	口数	人員	口数	人員
青森	143	98	0	0
岩手	194	114	1	1
宮城	647	322	33	33
秋田	562	209	2	2
山形	151	94	38	38
福島	111	91	1	1

サイン誌購読数

地区名	購読数	基準所属員	購読率
岩手	29	46	63.0
宮城	55	117	47.0
秋田	28	72	38.9
山形	33	80	41.3
福島	52	128	40.6

キャラコ購入実績

平成1年12月31日現在

地区名	反数	内 訳			
		A品	B品	C品	D品
青森	2	0	0	1	1
岩手	113	21	69	1	22
宮城	191	94	55	18	24
秋田	136	136	60	1	11
山形	0				
福島	73	3	70	0	0

## サインクリエイター出でよ!!

八月七日 資格試験実施へ

日広連紙上でご承知の通り、労働大臣認定の「サインボード・クリエイター」全国二十一名が結集し、昨年十一月、「サインクリエイター協会」を設立、業界デザインジャンルの確立をめざして活動の諸にいたが、現在、東北地区にはクリエイターが一人もいないのは何としても残念である。

この資格を得るための国家試験は、日広連が主体となって来る八月七日、東京において実施されるので、デザインの基礎的知識を有し、サインボード・デザイン制作実務が三年以上ある方々は是非この試験にチャレンジして、東北地区業界のデザインレベル向上の担い手となることを期待したい。

### 編集後記

地区連情報文化委員会として、初の地区連紙を発刊することが出来ました。創刊号という事で、内容に色々苦労しました。満足のいくものではない事は我々委員もわかっております。しかし、なんとか、出す事が出来ました。次号からの皆さん方のご意見も取り入れて編集したいと思っておりますのでぜひご投稿下さい。

創刊にあたり色々ご協力いただきました日広美連専務の杉田様に厚くお礼申し上げます。尚、ご意見がありましたらぜひ、各県委員長、又は事務局までご連絡いただきたいと思っております。

#### ●受験の手続き

上記の資格を有し、受験を希望する方は、氏名、連絡先及び「サインボード・クリエイター試験受験希望」と明記したハガキを下記へ送付すれば、追って受験案内及び所定の受験申込書を送付します。

#### ●受験料

学科試験 三〇〇〇円  
実技試験 九〇〇〇円  
計 一二〇〇〇円

#### ●試験日

平成二年八月予定

実施主体・社団法人全日本屋外広告業団体連合会

東京都墨田区亀沢一丁目一七番一四号  
電話〇三六二六二二二三

青森県・(有)弘 宣 貝瀬俊一

岩手県・(有)カマダデザインルーム 鎌田昌孝

宮城県・大友看板工芸社 大友敏夫

秋田県(株)東 陽 石井高義

山形県・彩 美 堂 古澤龍一

福島県・(有)クロサワ看板工芸 黒沢 功

#### 事務局

仙台市宮城野区原町三丁目四一十  
電話〇二二二五七〇四三七  
事務局長 小形 優